

# 決算補足説明資料

FY22 1Q

2022年05月13日

ノーリツ鋼機株式会社  
証券コード：7744（東証プライム市場）

**NORITSU**

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

## ■ 事業EBITDAについて

事業EBITDAは、営業利益から、その他の収益・費用を加減し、減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却費を除く）を加えて算出しております。連結財務諸表上に定義されていない指標であるものの、非経常的な損益や償却費に左右されない企業の本来の収益力を示すことから、連結財務諸表の利用者がノーリツ鋼機の業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

当期利益：親会社の所有者に帰属する当期利益

FY21：2021年12月期

FY22：2022年12月期

■ セグメント変更について

事業ポートフォリオの再編により、コア事業を「ものづくり」と再定義  
 報告セグメントもFY22から下記のとおり変更



現在

<主な事業会社>



## FY22 1Q 連結業績

- 売上収益は、JLabのグループ入りや事業成長により増収で着地
- 営業利益は、原材料、燃料費、物流費等のコスト上昇の影響により、減益で着地
- 当期利益は、株式売却益等により大幅に増益
- 為替は、円安は営業利益にプラスの影響
- テイボーは、筆記は好調に推移するも、MIMは顧客の生産調整の影響を受け伸び率が鈍化
- AlphaThetaは部品の需給逼迫の状況は続くものの、2桁成長で推移
- JLabは販売が伸びず、物流費等のコスト上昇もあり赤字で着地

## FY22 通期連結業績予想

- 新型コロナの感染再拡大や半導体不足等、先行きが見通しにくい状況が続くも変更なし
- テイボーは、筆記は堅調に推移するもののコスメの伸び率が鈍化。MIMは鈍化傾向も4Qに復調
- AlphaThetaは下半期からの生産改善を見込むも、通期で生産面の課題が継続
- JLabは上半期は低迷が続くものの、下半期挽回して、通期では予想通りの着地を見込む
- 原材料、燃料費、物流費等のコスト上昇が各事業で続く

# Contents

1. **FY22 1Q 連結業績**
2. **FY22 通期連結業績予想**
3. **トピック**

- 売上収益は、JLabのグループ入りや、事業成長により大きく伸長
- 営業利益は、増収による増益があるものの、成長投資やコスト上昇により減益
- 当期利益は、株式売却益等により大幅に増益

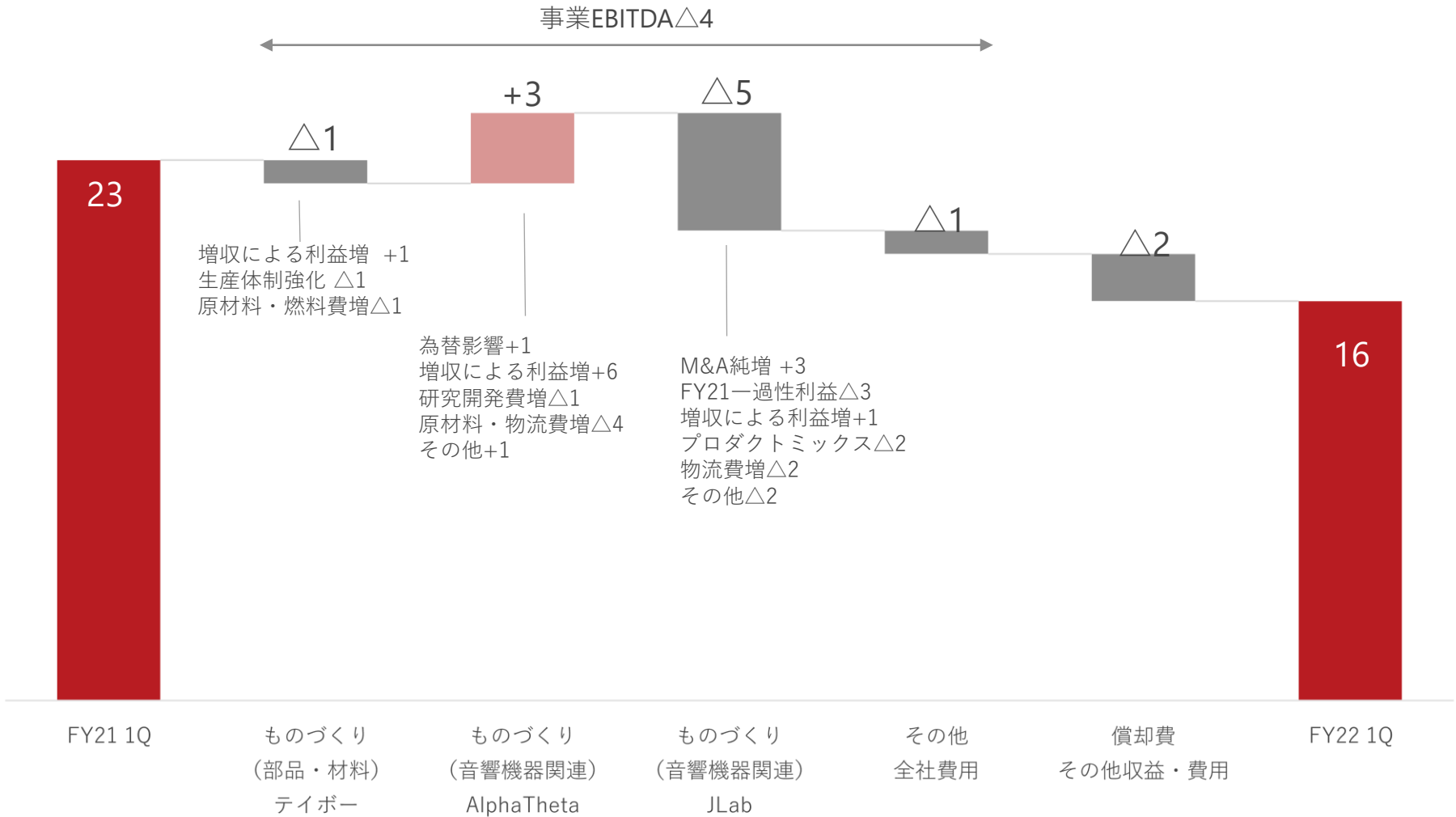
単位：百万円	FY21 1Q	FY22 1Q	増減額	増減率
売上収益	10,339	<b>14,224</b>	+3,884	+37.6%
事業EBITDA	2,964	<b>2,486</b>	△477	-16.1%
事業EBITDAマージン	28.7%	<b>17.5%</b>	-11.2%	-
営業利益	2,331	<b>1,671</b>	△660	-28.3%
当期利益	1,263	<b>100,140</b>	+98,876	+7,828.7%
為替レート (平均)	米ドル (円) 105.9	<b>116.2</b>	+10.3	-
	ユーロ (円) 127.7	<b>130.4</b>	+2.7	-
為替レート (期末)	米ドル (円) 110.7	<b>122.4</b>	+11.7	-
	ユーロ (円) 129.8	<b>136.7</b>	+6.9	-

\*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

■ 営業利益増減分析

- 生産体制強化のための人員採用や新商品開発の研究開発費等の成長投資を実施
- 原材料、燃料費、物流費等のコストが上昇

単位：億円



# 為替の各事業への影響について

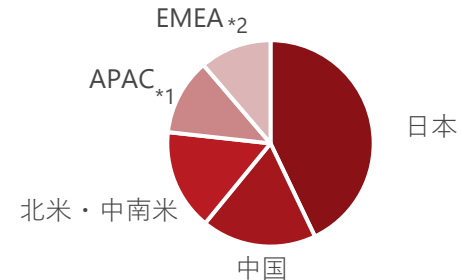
- 米ドル及びユーロ取引が多いAlphaTheta及びJLabで影響あり
- 円安はグループ全体では営業利益プラスに

## 概要

## FY21 地域別売上収益構成比

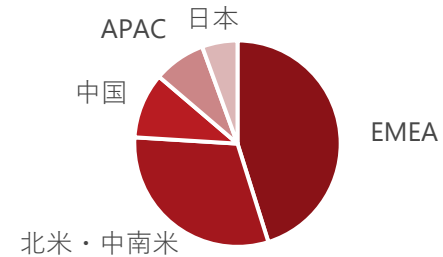
テイボー

- グローバルで販売及び仕入ともに円貨取引が基本のため**対米ドル、対ユーロともに影響は僅少**



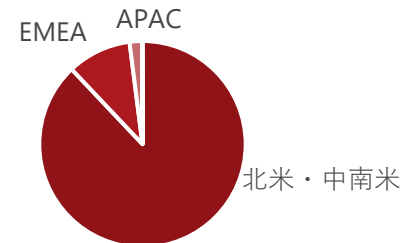
AlphaTheta

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- EMEAの売上収益が大きいいため、**対ユーロで円安は利益プラス**
- 北米を中心とする米ドルでの売上収益が仕入をやや下回るため、**対米ドルで円安は利益マイナス**



JLab

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- 米国の売上収益が大きいいため、**対米ドルで円安は利益プラス**
- 米国以外は売上収益がまだ小さいため影響は軽微



\*1 APACは、アジア、オーストラリア（日本、中国を除く）

\*2 EMEAは、ヨーロッパ、中東、アフリカ



為替の通期連結業績への影響は以下のとおり

※2022年5月13日更新

## 為替レート（平均）の1円円安による影響額

通貨	FY22予想 為替前提	売上収益	事業EBITDA/営業利益
米ドル	108.0円	+2.8億円	+0.1億円
ユーロ	128.0円	+0.9億円	+0.9億円

## 為替レート（期末）の1円円安による影響額

通貨	FY22予想 為替前提	税引前利益
米ドル*1	115.0円	+2.6億円
ユーロ*2	130.0円	△2.0億円

\*1 外貨建て貸付金（グループ内）の評価替えによる為替差損益。回収に伴う残高減少に伴い影響額は減少

\*2 外貨建てローンの評価替えによる為替差損益。返済による残高減少に伴い影響額は減少

# バランスシートの状況

- FY22 1QからJMDCを連結除外
- 株式売却により現金性資産は大きく増加

単位：百万円	FY21 4Q	調整額	調整後 FY21 4Q <sup>*1</sup>	FY22 1Q	増減額
現金及び現金同等物	38,141	△14,459	23,682	<b>122,946</b>	① +99,264
売上債権及びその他の債権	21,865	△8,687	13,178	<b>10,052</b>	△3,126
棚卸資産	14,638	△280	14,358	<b>16,637</b>	+2,279
のれん	66,127	△19,367	46,760	<b>46,903</b>	+143
無形資産	89,209	△5,091	84,118	<b>85,230</b>	+1,112
その他資産	34,231	△12,509	21,722	<b>80,996</b>	② +59,274
<b>資産合計</b>	<b>264,211</b>	<b>△60,393</b>	<b>203,818</b>	<b>362,764</b>	<b>+158,946</b>
仕入債務及びその他の債務	13,282	△5,945	7,337	<b>5,513</b>	△1,824
借入金	95,619	△11,898	83,721	<b>78,411</b>	③ △5,310
その他負債	28,503	△12,396	16,107	<b>66,453</b>	④ +50,346
<b>負債合計</b>	<b>137,404</b>	<b>△30,239</b>	<b>107,165</b>	<b>150,377</b>	<b>+43,212</b>
<b>資本合計</b>	<b>126,806</b>	<b>△30,154</b>	<b>96,652</b>	<b>212,387</b>	<b>+115,735</b>
有利子負債	95,619	△11,898	83,721	<b>78,411</b>	△5,310
現金性資産	40,391	△14,459	25,932	<b>184,967</b>	⑤ +159,035
<b>Net Debt</b>	<b>55,227</b>	<b>+2,561</b>	<b>57,788</b>	<b>△106,556</b>	<b>△164,344</b>

## 主な増減要因

- ① 現金及び現金同等物+992億円
  - ・ 事業EBITDA+24億円
  - ・ 子会社株式の売却 +1,118億円
  - ・ 借入金の返済△70億円
  - ・ 配当金の支払△65億円
- ② その他資産+592億円
  - ・ 投資有価証券（JMDC株式）+598億円
- ③ 借入金△53億円
  - ・ 返済△70億円
- ④ その他負債+503億円
  - ・ 未払法人税の増加 +314億円
  - ・ 繰延税金負債の増加+172億円
- ⑤ 現金性資産+1,590億円
  - ・ 投資有価証券（JMDC株式）598億円含む

\*1 2021年12月末のJMDCの公表数値を控除した参考値

セグメント別業績は以下のとおり

単位：百万円		FY21 1Q	FY22 1Q	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	2,854	<b>3,062</b>	+208	+7.3%
	事業EBITDA	965	<b>791</b>	△174	-18.0%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	7,238	<b>10,895</b>	+3,656	+50.5%
	事業EBITDA	2,119	<b>1,899</b>	△219	-10.4%
AlphaTheta	売上収益	7,238	<b>8,462</b>	+1,224	+16.9%
	事業EBITDA	2,119	<b>2,443</b>	+324	+15.2%
JLab	売上収益	-	<b>2,433</b>	+2,433	-
	事業EBITDA	-	<b>△543</b>	△543	-
その他・全社費用	売上収益	246	<b>266</b>	+19	+7.7%
	事業EBITDA	△121	<b>△204</b>	△83	-
連結合計	売上収益	10,339	<b>14,224</b>	+3,884	+37.6%
	事業EBITDA	2,964	<b>2,486</b>	△477	-16.1%

# ■ セグメント別概況

## ものづくり（部品・材料）/テイボー

（対前年同期：売上収益 +7.3%/事業EBITDA -18.0%）

- ペン先の筆記は堅調に推移。ペン先のコスメは中国市場での伸びが鈍化
- MIMは部品不足による顧客の生産調整の影響により、伸びが鈍化。新工場の移設は予定通り進捗
- 売上収益は拡大するも、原材料・燃料費の上昇で対前年同期で事業EBITDAは減少

## ものづくり（音響機器関連）/AlphaTheta

（対前年同期：売上収益 +16.9%/事業EBITDA +15.2%）

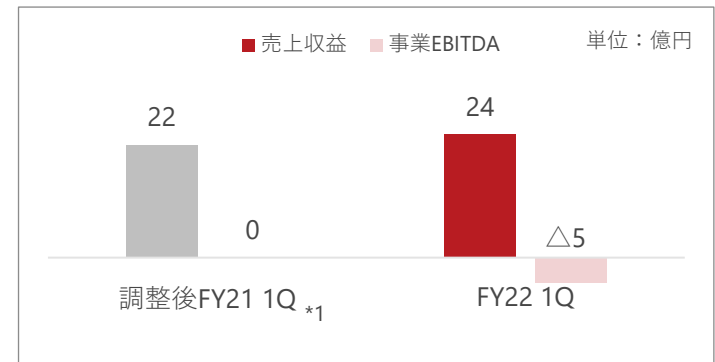
- 前期からの期ずれによる販売が予定通り発生
- 引き続き需要は高く販売が好調であったが、部品の需給逼迫の状況が続き、在庫が不足
- 前期末から受注残高が増加
- 市中在庫の確保や置換設計によるコスト上昇の影響あり

## ものづくり（音響機器関連）/JLab

（対前年同期：売上収益 +9.0%/事業EBITDA -5億円）\*1

- 物流リードタイム長期化により機会損失が発生
- 物流費等のコスト上昇の影響もあり、赤字で着地

JLab 売上収益及び事業EBITDA



\*1 FY21 1Qで発生した会計処理変更による一過性の売上収益及び事業EBITDAの影響+3億円を除いた参考値との比較

# Contents

1. FY22 1Q 連結業績
2. FY22 通期連結業績予想
3. トピック

## ものづくり（部品・材料）/テイボー

- ペン先の筆記は堅調に推移。ペン先のコスメは新型コロナの感染再拡大により中国市場の低迷が続く
- MIMは、顧客の生産調整の影響により伸びが鈍化傾向も4Q以降復調
- 原材料や燃料費等の高騰が続く
- ペン先、MIMともに、予定していた生産体制の強化は、需要を見据えて実施

## ものづくり（音響機器関連）/AlphaTheta

- 需要は引き続き堅調に推移
- 下半期から改善に向かうものの、部品の需給逼迫により、生産面の課題が継続
- 新商品開発の研究開発投資は予定どおり継続実施
- 原材料や物流費の高騰が続く

## ものづくり（音響機器関連）/JLab

- 上半期は低迷が続くものの、下半期は挽回し、通期では予想通りの着地を見込む
- 物流費の高騰や物流リードタイムの長期化に対し、改善策を実行中

1Qの進捗率は高かったものの、新型コロナの感染再拡大や半導体不足等、先行きが見通しにくい状況が続くため、2022年2月25日付での公表内容から上半期及び通期連結業績予想を変更せず

単位：百万円	FY21	FY22予想	増減額	増減率	
売上収益	54,481	<b>66,200</b>	+11,719	+ 21.5%	
事業EBITDA	10,904	<b>11,800</b>	+896	+ 8.2%	
事業EBITDAマージン	20.0%	<b>17.8%</b>	-2.2%	-	
営業利益	6,157	<b>7,000</b>	+843	+ 13.7%	
当期利益	5,183	<b>97,700</b>	+92,517	+ 1,785.0%	
為替レート (平均)	米ドル (円) ユーロ (円)	109.8 129.9	<b>108.0</b> <b>128.0</b>	△1.8 △1.9	- -
為替レート (期末)	米ドル (円) ユーロ (円)	115.0 130.5	<b>115.0</b> <b>130.0</b>	- △0.5	- -

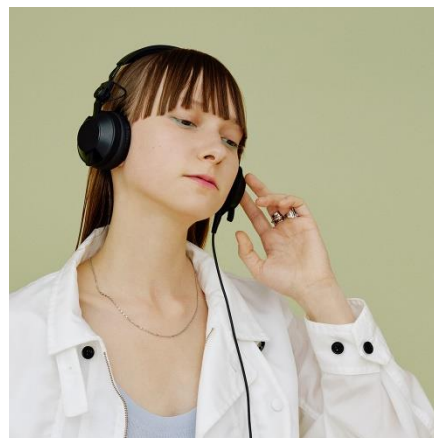
\*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

# Contents

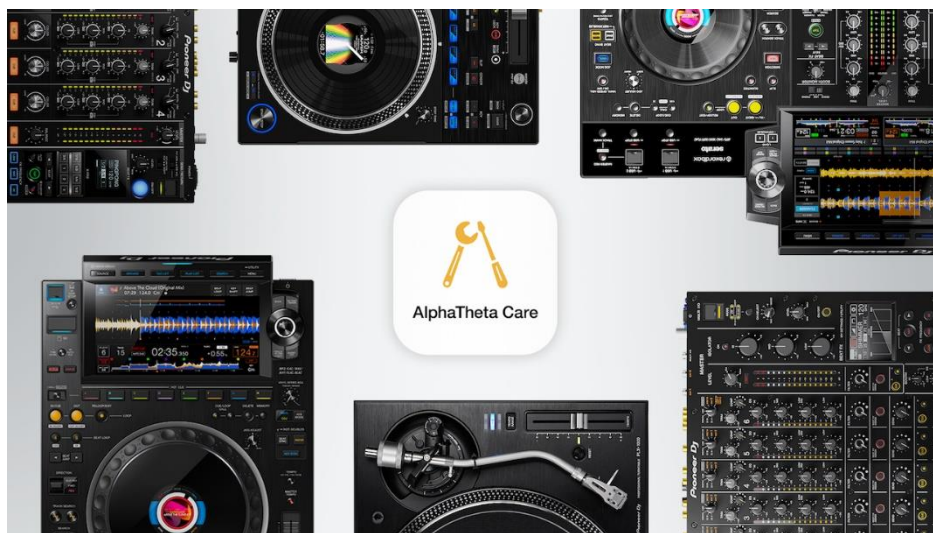
1. FY22 1Q 連結業績
2. FY22 通期連結業績予想
3. トピック



圧倒的軽さと耐久性を兼ね備えたオンイヤー型プロフェッショナル DJヘッドホン「HDJ-CX」発売（2022年3月）



DJ業界初の製品延長保証サービス「AlphaTheta Care」の提供を開始（2022年5月）



部品の消耗による故障に対応

### AlphaTheta Care Plus

自然故障に対する保証プラン

物損もカバーしてアクシデントにも安心

### AlphaTheta Care Pro

自然故障+物損に対する保証プラン

**EarBuds (イヤホン) シリーズ**

多様なスキンカラーに対応したGO AIR TONES、マルチデバイス対応の「JBUDS AIR PRO」

**GO AIR TONES** (2022年1月発売)

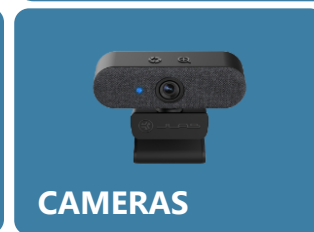


**JBUDS AIR PRO** (2022年4月発売)



**MEET WORK : (ワーク)**

ライフのためにデザインされたプロダクトシリーズ。(2022年5月発売)



2022年3月下旬より、日本公式通販サイト及びAmazon Japanの公式ページにて販売開始

**PR TIMES** プレスリリース・ニュースリリース配信サービスPR TIMES  
 Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

**True Wirelessイヤホン全米売上No.1オーディオブランド「JLab」日本公式通販サイトオープン 日本初登場！「GO AIR POP TRUE WIRELESS EARBUDS」**

3月22日(火)より公式サイトとAmazonにて販売開始4,000円以下で買える最長32時間のバッテリーを有する高コストイヤホン

**JLab Japan株式会社**  
 © 2022年3月22日 11時00分

ノリツコ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役CEO：若切隆吉）のグループ会社であるJLab Japan株式会社は、オーディオブランド「JLab」を3月22日(火)よりJLab 日本公式サイト（公式通販）、Amazon内公式ストアにて販売開始いたします。

「JLab」は“聴きやすさ”にこだわった、カリフォルニア発のアクティブオーディオブランドです。2020年度にTrue Wirelessイヤホン市場において全米No.1（※）を獲得し、米国で最も注目されているオーディオメーカーの1つになっています。2013年にAmazonのイヤホントップセールスブランドになったことを皮切りに、米国でのポジションを確立。2017年にTrue Wirelessイヤホンの販売を開始したことや、MLS（メジャーリーグサッカー）の公式オーディオパートナーになったことで、米国の若者やスポーツマンから絶大な人気を得ています。

この度、日本に再上陸するのは「JLab」で人気のあるワイヤレスイヤホン6種類です。中でも、「GO AIR POP TRUE WIRELESS EARBUDS」（以下、GO Air POP）は日本で初めて発売される製品になります。





【630までの期間限定】GO AIR POPが500円OFFの特別価格！

amazon pay ご利用いただけます

よくあるご質問 ヘルプリンク先

製品 JLABについて NEWS お客様サポート

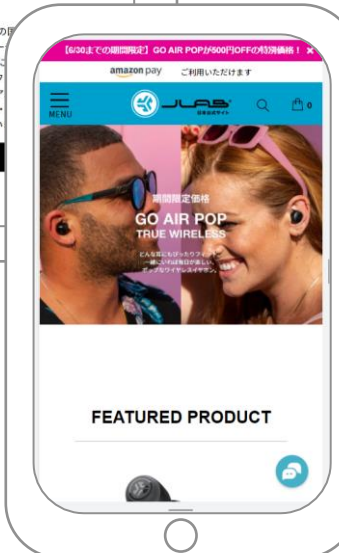
検索

**使いやすさ、世界基準。**

“聴きやすさ”にこだわった、カリフォルニア発のアクティブオーディオブランド

JLabは、多様性とチャレンジの精神でカリフォルニアで生まれた、オーディオメーカー。2005年の設立以来、音質はもちろん、徹底的にユーザーの声を聞き、徹底したユーザー性の高さで人気に火がつき、アメリカNo.1ブランドに成長。高性能・高品質の毎日アクティブに変わって

製品一覧



【630までの期間限定】GO AIR POPが500円OFFの特別価格！

amazon pay ご利用いただけます

MENU

期間限定価格  
**GO AIR POP TRUE WIRELESS**

FEATURED PRODUCT

# Appendix



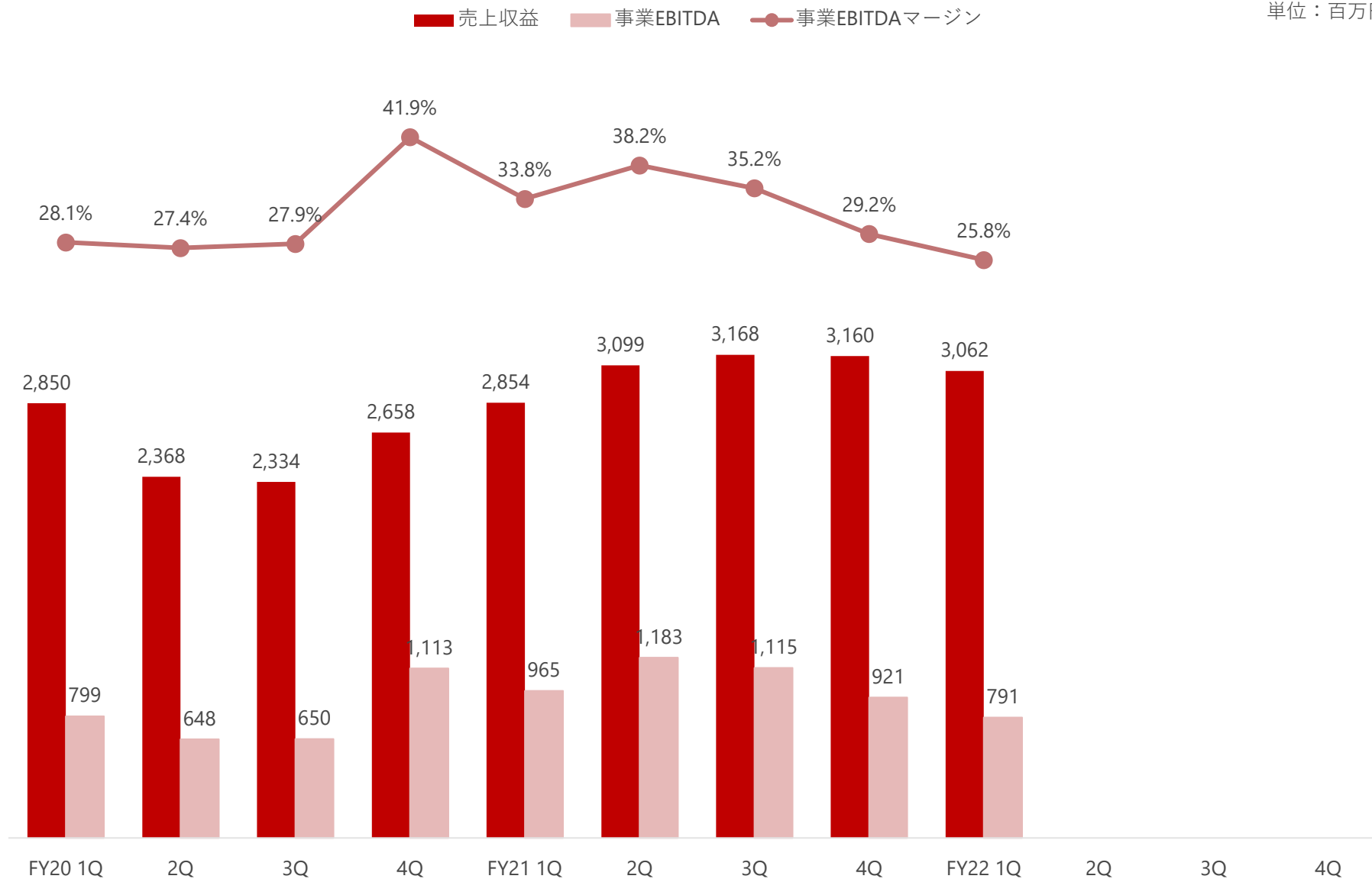
単位：百万円		FY21	FY22予想	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	12,282	<b>13,300</b>	+1,018	+8.3%
	事業EBITDA	4,185	<b>4,300</b>	+115	+2.7%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	41,107	<b>51,700</b>	+10,593	+25.8%
	事業EBITDA	7,241	<b>8,400</b>	+1,159	+16.0%
AlphaTheta	売上収益	26,511	<b>31,000</b>	+4,489	+16.9%
	事業EBITDA	5,671	<b>6,000</b>	+329	+5.8%
JLab	売上収益	14,596	<b>20,700</b>	+6,104	+41.8%
	事業EBITDA	1,569	<b>2,400</b>	+831	+53.0%
その他・全社費用	売上収益	1,090	<b>1,200</b>	+110	+10.1%
	事業EBITDA	△522	<b>△900</b>	△378	-
連結合計	売上収益	54,481	<b>66,200</b>	+11,719	+21.5%
	事業EBITDA	10,904	<b>11,800</b>	+896	+8.2%

単位：百万円	FY21上半期	FY22上半期予想	増減額	増減率
売上収益	23,530	<b>28,100</b>	+4,570	+19.4%
事業EBITDA	6,272	<b>3,700</b>	△2,572	-41.0%
事業EBITDAマージン	26.7%	<b>13.2%</b>	-13.5%	-
営業利益	3,748	<b>1,300</b>	△2,448	-65.3%
当期利益	1,769	<b>94,300</b>	+92,531	+5,230.7%
為替レート (平均)	米ドル (円) 107.7	<b>108.0</b>	+0.3	-
	ユーロ (円) 129.8	<b>128.0</b>	△1.8	-
為替レート (期末)	米ドル (円) 110.6	<b>115.0</b>	+4.4	-
	ユーロ (円) 131.6	<b>130.0</b>	△1.6	-

\*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

単位：百万円		FY21上半期	FY22上半期予想	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	5,953	<b>6,400</b>	+447	+7.5%
	事業EBITDA	2,148	<b>2,000</b>	△148	-6.9%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	17,095	<b>21,100</b>	+4,005	+23.4%
	事業EBITDA	4,431	<b>2,200</b>	△2,231	-50.3%
AlphaTheta	売上収益	14,255	<b>13,400</b>	△855	-6.0%
	事業EBITDA	4,134	<b>1,600</b>	△2,534	-61.3%
JLab	売上収益	2,840	<b>7,700</b>	+4,860	+171.1%
	事業EBITDA	296	<b>600</b>	+304	+102.7%
その他・全社費用	売上収益	481	<b>600</b>	+119	+24.7%
	事業EBITDA	△308	<b>△500</b>	△192	-
連結合計	売上収益	23,530	<b>28,100</b>	+4,570	+19.4%
	事業EBITDA	6,272	<b>3,700</b>	△2,572	-41.0%

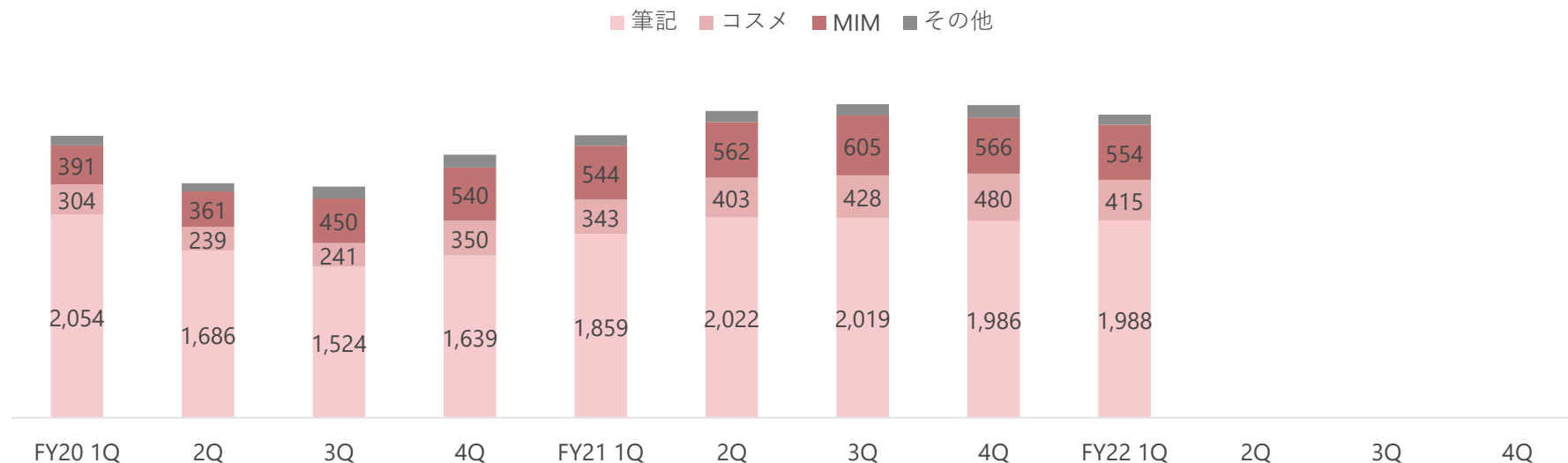
単位：百万円





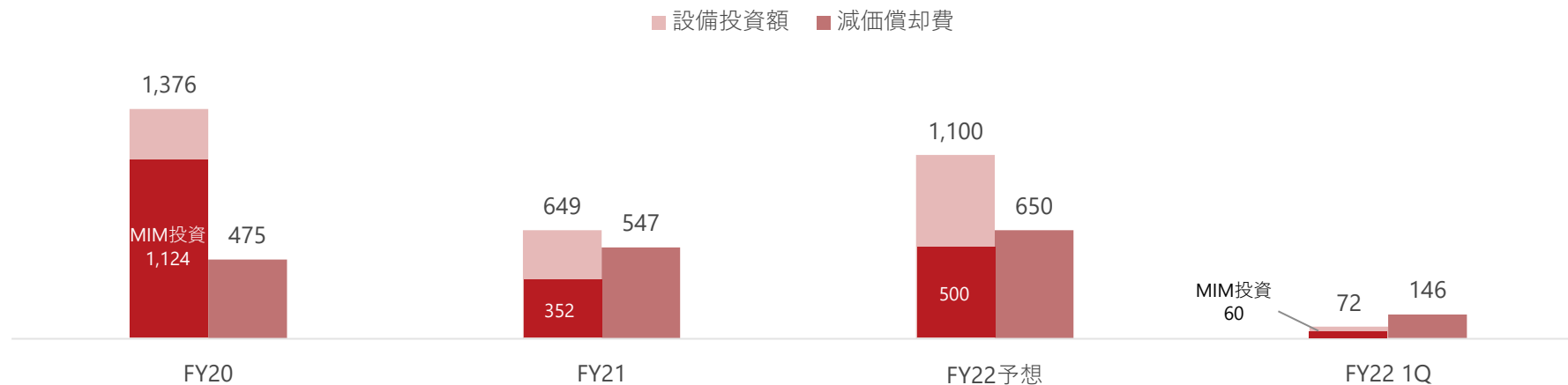
カテゴリ別売上収益推移

単位：百万円



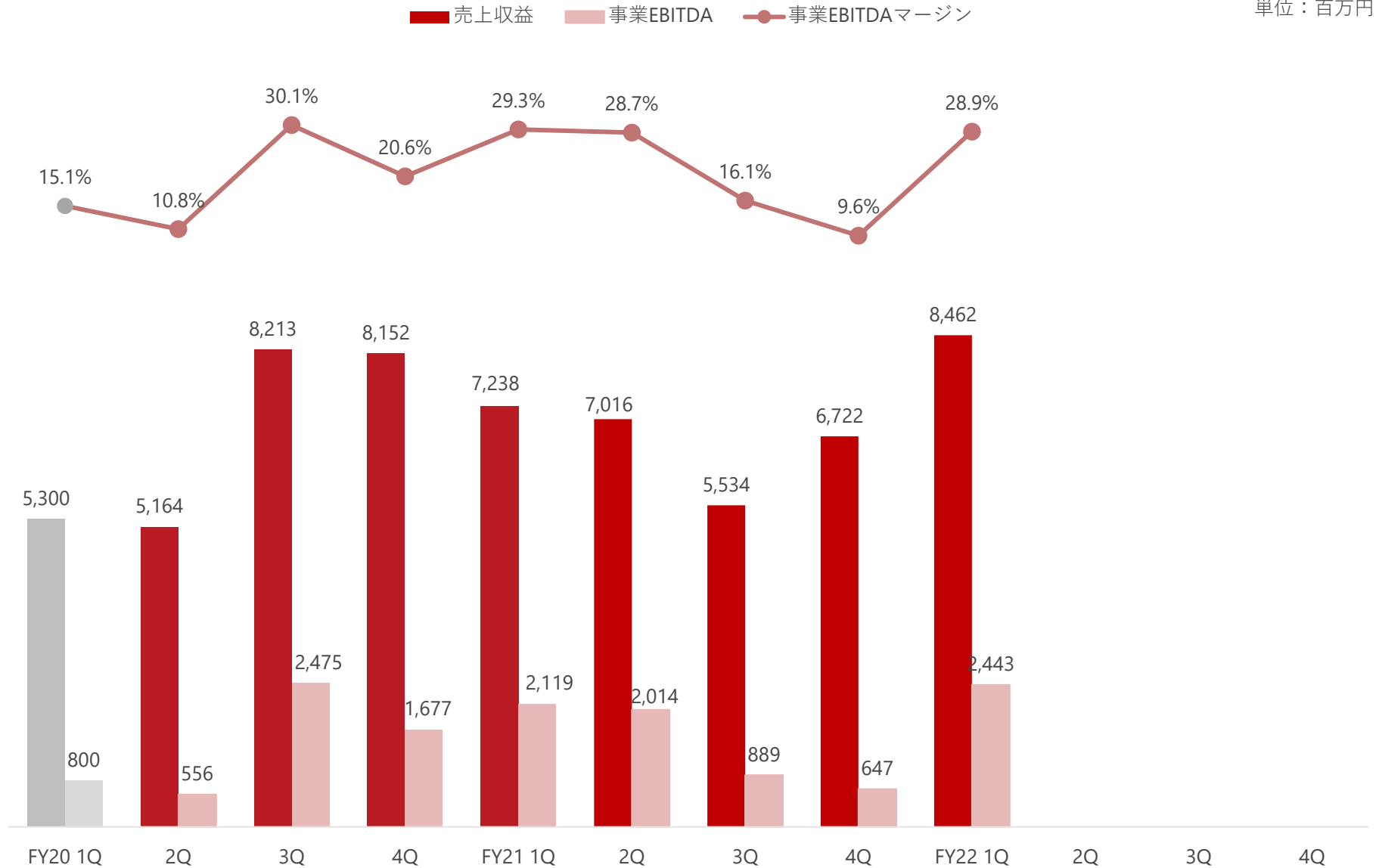
設備投資・減価償却費 \*1

単位：百万円



\*1 使用権資産に係る償却費及びPPAの償却費を除く

単位：百万円



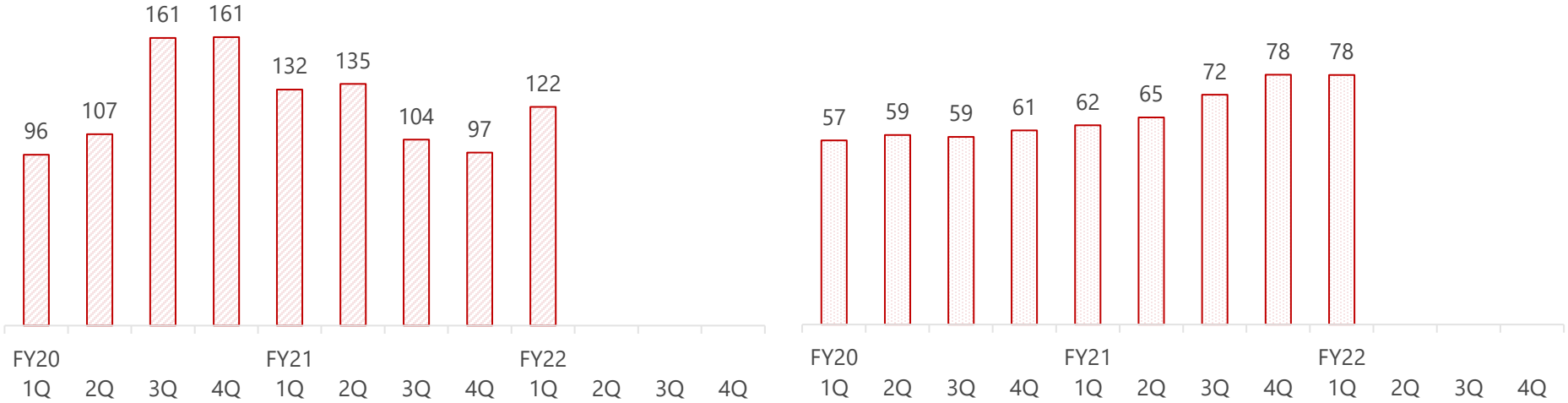
\*グレーの期間は、グループ外のため参考値

DJ機器出荷台数

単位：千台

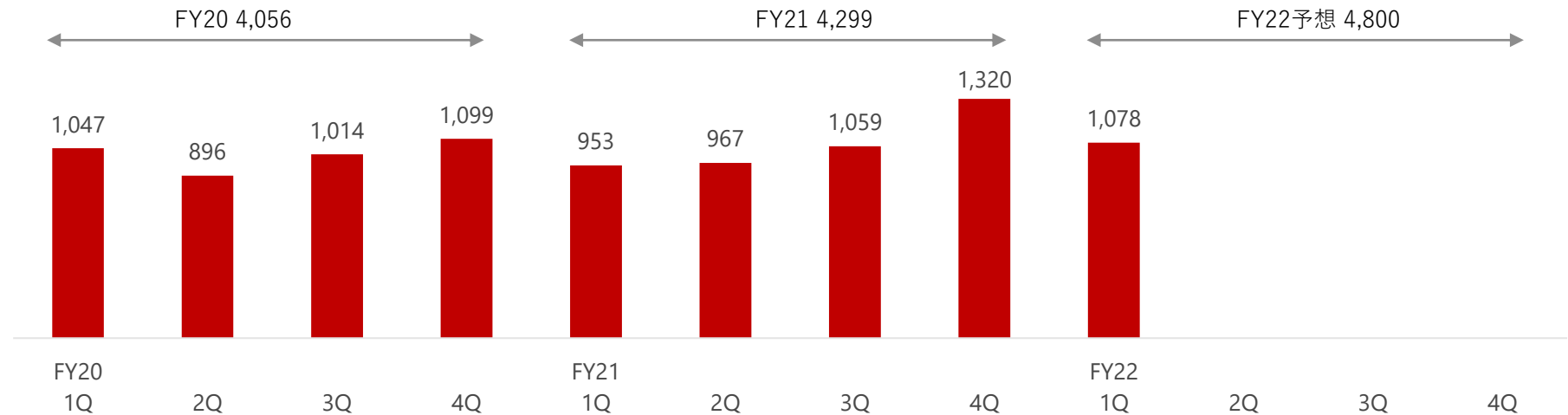
DJ向けアプリケーションMAU

単位：万人

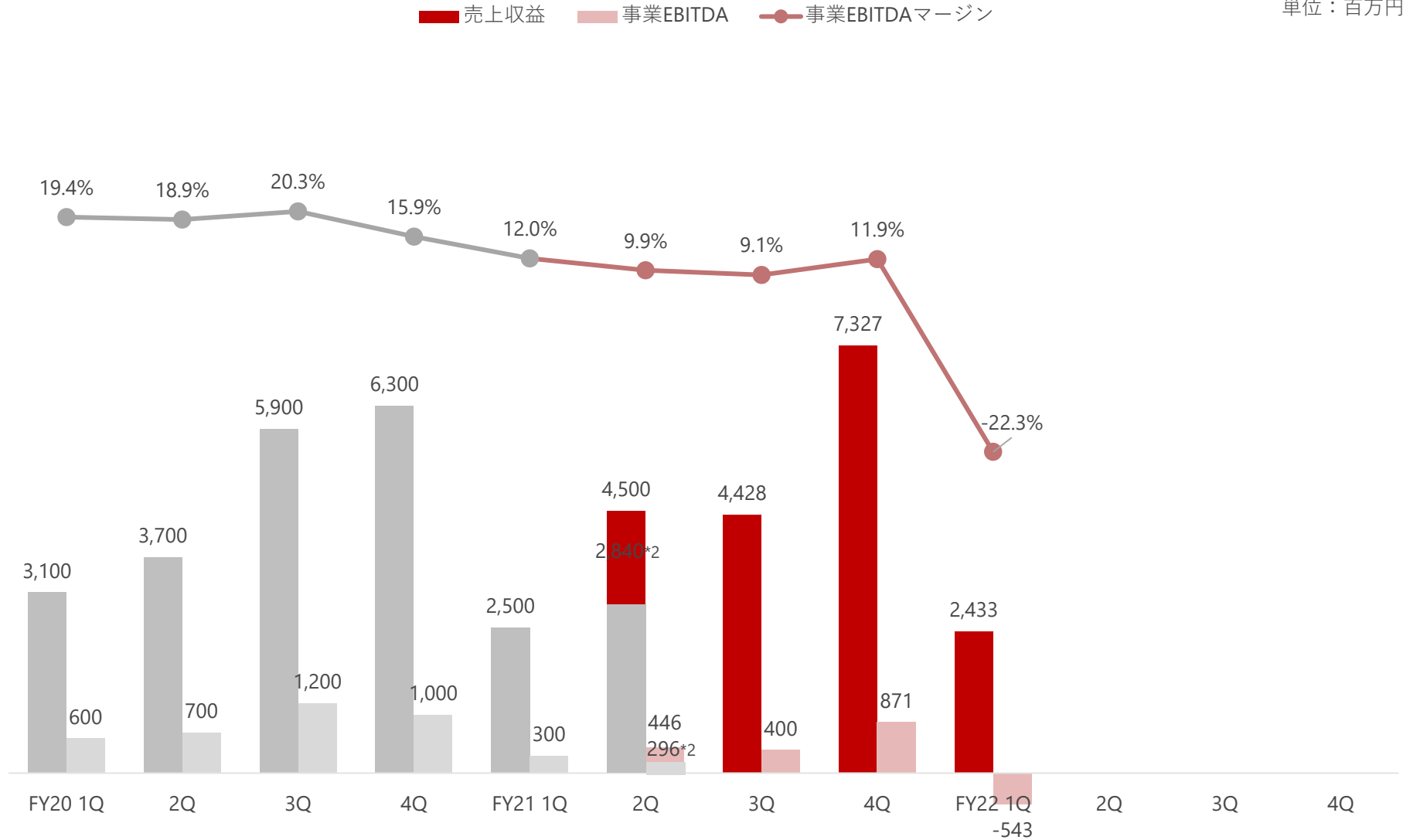


研究開発費

単位：百万円



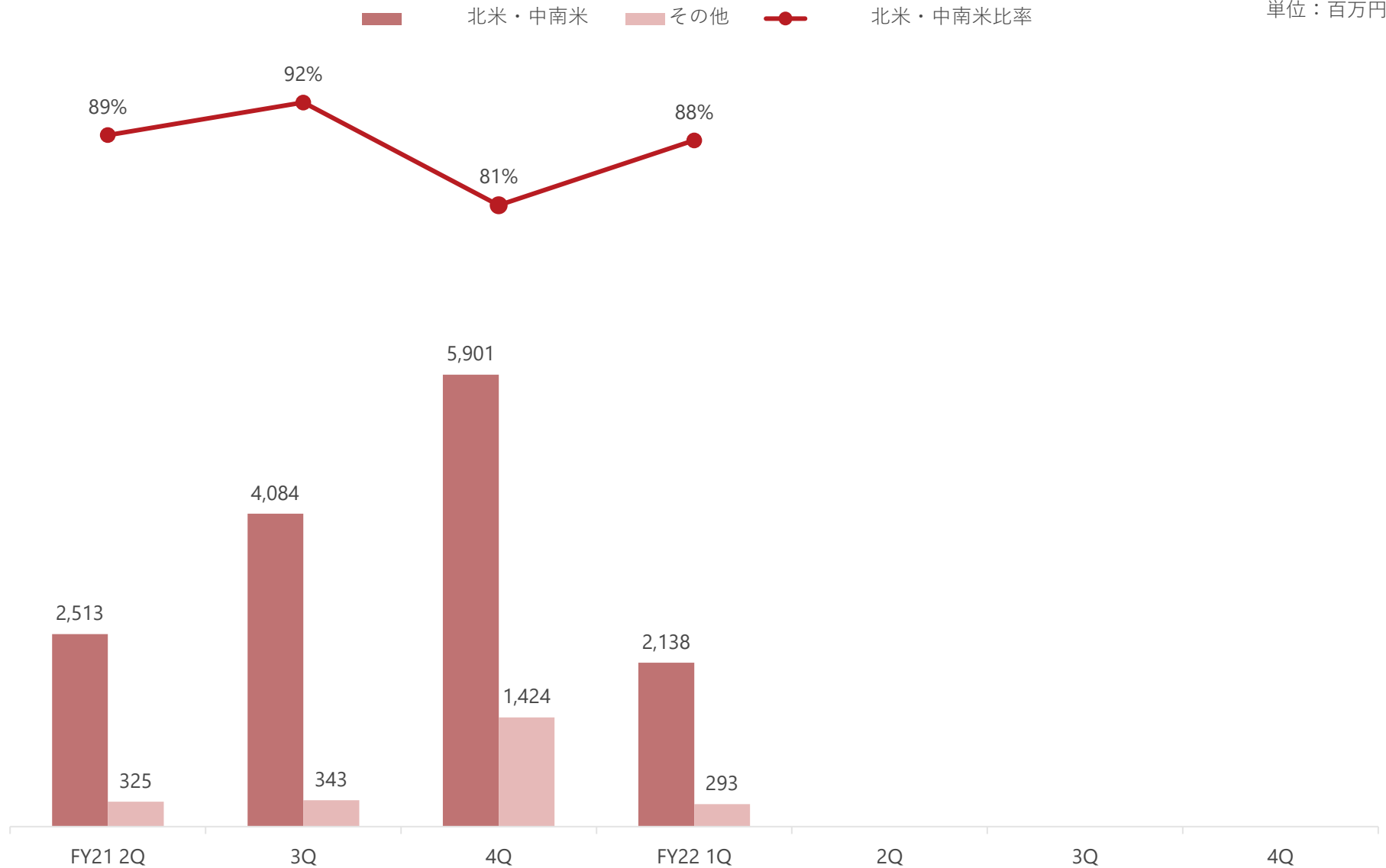
単位：百万円



\*1 グレーの期間は、グループ外のため参考値。米国会計基準。1米ドル106円で換算

\*2 2021年5月にグループ入りした以降の金額

単位：百万円



\*2021年5月にグループ入りした以降の金額

社名 ノーリツ鋼機株式会社（東証プライム市場：7744）

代表者 代表取締役CEO 岩切 隆吉

創業 1951(昭和26)年6月

設立 1956(昭和31)年6月

資本金 7,025,302,000円

本社 東京都港区麻布十番1-10-10 ジュールA 5階

取締役	岩切 隆吉	取締役 (監査等委員)	太田 晶久
	横張 亮輔		伊庭野 基明
	大塚 あかり		高田 剛

## 部品・材料

先端及び極小部材の製造事業

### テイボー株式会社

**会社名** テイボー株式会社  
**代表者** 代表取締役会長 高原建司  
**資本金** 50百万円  
**主要株主** ノーリツ鋼機株式会社  
**事業内容** 筆記分野ペン先部品（フェルト、合成繊維、プラスチック）、非筆記分野、先端部材、MIM製造部品、コスメ用ペン先部材（合繊芯、プラスチック芯、ポリブチレンテレフタレート樹脂（PBT）ブラシなど）等の製造・販売

#### ■グループ会社

**泰宝制筆材料(常熟)有限公司**（テイボー100%子会社）  
 ・マーキングペン先部品の中国（江蘇州）における製造・販売拠点

**株式会社 soliton corporation**（テイボー100%子会社）  
 ・コスメ用ペン先部材の製造・販売

## 音響機器関連

音響、音楽制作機器の商品開発事業

### AlphaTheta株式会社

**会社名** AlphaTheta株式会社  
 （旧Pioneer DJ株式会社）  
**代表者** 代表取締役社長 片岡芳徳  
**資本金** 1億円（2021年12月31日現在）  
**主要株主** ノーリツ鋼機株式会社  
**事業内容** DJ/CLUB機器、業務用音響機器、音楽制作機器の商品開発・設計・及び販売、ならびにそれらのサービスに関する事業

#### ■販売子会社

**AlphaTheta EMEA Limited**  
**AlphaTheta Music Americas, Inc.**  
**AlphaTheta (Shanghai) CO., Ltd.**

## 音響機器関連

パーソナルオーディオデバイス製品事業

### PEAG, LLC dba JLab Audio

**会社名** PEAG, LLC dba JLab Audio  
**代表者** Winthrop Cramer, CEO  
**資本金** 26M USD（2020年12月31日現在）  
**主要株主** ノーリツ鋼機株式会社  
**事業内容** パーソナルオーディオデバイス及びテクノロジー製品の設計及び販売

# NORITSU

本資料に記載されているいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。  
また、当社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、  
これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。  
実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、  
いかなる確約や保証を行うものではありません。